

第26回 元気が出る 森松展

皆様のご来場、誠にありがとうございました！！



実行委員長
伊東郁二

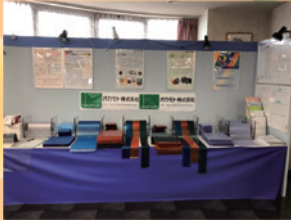
大勢の方々のご協力と森松社員が

一丸となってこそ成し遂げることができたと痛感しております。有難うございました。

ご多忙の中、足を運んでいただきました来場者様におきましても、重ねて御礼申し上げます。

第26回展示会場は、常設とさせていただいております。

近くにお立ち寄りの際には、お気軽にお越しください。



来場者数

1 日目	161 名
2 日目	184 名
3 日目	44 名
合計	389 名

第26回森松展を振り返り

森 直樹 (代表取締役社長)



第26回元気が出る森松展、今回は389名の来場者を迎え盛況のうちに閉会いたしました。展示会では様々な目的があります。あくまでビジネスの起点である情報の提供が主たるものですが、来場者の方にとっても森松展に来る様々な理由があります。大多数の方にとっては情報収集と商談の場であり、新人の方には勉強の場であり、ベテランの方には旧交を深める場でもあるでしょう。このように立場によって展示会の役割は人それぞれです。間口の広い展示会にすることで今後の可能性をより広げていくような森松展を目指して行きたいと思えます。また今回頂いたご縁から更に森松と商売がしたいと思われるような結果が出るよう、各営業とともにフォローして参ります。森松の展示会は全てが従業員の手によって進められます。車、あるいは電車で来場されてから森松を出るまで、全て森松の従業員によって対応します。駐車場係から受付、営業とひとりひとりの対応のなかでどこかに不備があっても、展示会の印象が変わってしまいます。森松マン全員で、来場者の方に笑顔で帰っていただきます。森松展を今後も継続していきましょう！また、最後に今回の展示会に出展いただきました皆様に御礼申し上げます。次回もご賛同頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

西国三十三所巡礼(2)

村田 恒夫 (総務経理部)



西国三十三所巡礼デビュー(130.5:第三十番札所の宝厳寺)をして3ヶ月、今回は、京都でも丹後方面へ天橋立・伊根の舟屋の観光を兼ねて、第二十八番札所の成相寺と第二十九番札所の松尾寺に行ってきました。第二十九番札所の松尾寺(難所)は、舞鶴若狭道舞鶴東¹から4kmで松尾寺入口、さらに急な曲がり道や、車が1台しか通過できない、かなり狭い山道を2.4km走らなければならない。対向車が来た場合「譲りエリア」までバックが必要。運転があまり上手ではない私にとっては、何かストレスが溜まる中で車の運転でしたが、運が良く対向車とすれ違うことなく松尾寺に到着することが出来ました。暑さと山道の運転の疲れでお参りは3分程で、授与所にて御朱印を頂く。帰り(山道)も運がよく対向車とすれ違うことなく、伊根の舟屋へ向かう。伊根湾めぐりの遊覧船では舟屋が立ち並ぶ伊根湾を約25分かけて周遊しました。船に群がるカモメ、海からの舟屋の景色は最高でした(舟屋とは1Fが船着き場、2Fが居室という大変珍しい建物)。舟屋を後にして宿泊先の奥伊根温泉に向かう。丹後・奥伊根温泉 油屋にて宿泊:料理も美味しく、温泉が最高に良かった。翌日、第二十八番札所の成相寺に向かう。成相寺は、松島、宮島とともに日本三景として数えられてきた天橋立を見下ろす成相山の中腹に建っています。車を府中の駐車場へ、府中駅からケーブルカーに乗り傘松駅迄約4分、傘松公園から成相登山バスに乗り6分で成相寺に到着。この日も暑い(35度以上)!!昨日に続き、お参りも程々にして授与所にて御朱印を頂き、成相登山バスにて傘松公園(成相山の山腹に整備された公園)まで戻りました。傘松公園では、新展望台「スカイデッキ」、眺望スペース「スカイテラス」、展望ウッドデッキ「コロッセオ」等 天橋立の景色を楽しむことが出来ました。

今回の西国三十三所巡礼(2)では、あまりの暑さでお参りを疎かにしてしまいました、札所の参道は石段が多く巡拝するだけで相当な酸素運動と筋力増強運動になる。つまり巡礼することにより精神的にも体力的にもいい効果が期待できることを信じ、西国三十三所をすべて参拝し終えたい。



「第3子誕生」

伊東 義弥 (特販部)



今年の4月7日に第3子が誕生しました。身長49cm、体重3076gの元気な女の子です。一人目は立ち合い出産、二人目は中国出張中に生まれてしまい立ち合いができませんでしたが、今回三人目は、立ち会うことができました。三人目の出産ということで、リラックスしながらの出産かと思ったら妻は三人目にして一番の緊張:なぜ三人目で???一人目と二人目は、間があまり開いていなかったもので、緊張もなかったのですが、三人目は、二人目から間が3年半開いていることもあり、かなり怖かったです。陣痛が始まってからとても辛そうでしたが、無事三人目を元気に生んでくれました。名前は、妻が付けたということ、初めて任せることに。春真つ只中で生まれたということもあり、「桜」という名前にしました。とてもかわいくぶくぶくに育っております。ところで4月というのは、実は伊東家では1年で1番お祝いごとが多い月なんです。なぜかというと、4月は四人も誕生日を迎える月だからです。私の父が4月14日生まれ、妻が4月30日生まれ、あと2人は?なんと私の母と今回生まれた桜が、4月7日で同じ誕生日なのです!!!当初の出産予定は父と同じ4月14日だったので:(笑) そんなこともあり、今では、家族8人で、2世帯で生活しております。そして最近では、長男の龍弥が9月3日で6歳の誕生日を迎えました。来年からはなんと小学生です!!!いろいろな不安は多いですが、毎日明るく楽しく騒がしく過ごしております。仕事はもちろん、もっとイクメン頑張りたいと思います。



名古屋ボストン美術館閉館

大和田 夕美（営業部）



通勤途中に、名古屋市ボストン美術館があります。名古屋市
中区金山に所在する美術館です。1999年（平成11年）に開館し
ています。米国のボストン美術館との姉妹館です。開館20年に
なりますが、平成30年10月8日にて閉館となります。年間入館
者数が目標の数字を下回り、赤字が続いてきたことが閉館する
理由のようです。現在、美術館が入るビルを管理する名古屋市
によると、閉館後の活用方法は、決まっていないようです。

最終展として、「ハピネス 〜明日の幸せを求めて〜」

7月24日（火）〜10月8日（月・祝）まで展覧されています。

開館時間ですが、火・金曜日が10
時〜19時で、土・日・祝休日が10
時〜17時です。入館料金が一般

¥1300円・高大生¥900円・中学

生以下無料です。残り少ない最終
日までに行ってみようと思いま

す。毎日、ボストン美術館の建物

を見ながらの通勤が無くなる私に

とってはとても寂しく感じます。



維新の英雄

山口 和也（製造部）



明治維新の英雄と言えば、真っ先に名前が上がるのは坂本龍馬ですが、な
ぜか彼には魅力を感じません。私の中での維新の英雄は、新選組です。近藤
勇・土方歳三・永倉新八・沖田総司・斎藤一など剣の達人集団で、動乱の京
都で市中の取り締まりにあたっていました。現代に例えると警察のような組
織です。歴史的には、ほぼ何の影響を与えていないし徒花とまで言われてい
る英雄ともとれない新選組に多に魅力を感じています。その中でも、特に
土方歳三のファンで、彼の足跡を巡る旅に歴女の娘と出かけることもありま
す。終焉の地の函館、資料館や墓のある東京日野市など見て回りました。
特に資料館で土方の愛刀である和泉守兼定を見た時は、刀の柄の部分に握っ
た跡がはつきりとすり減っているのがわかり感動して、周りを気にせず娘と
二人で「凄い！凄い！」と騒いだこともありました。時代の大きな流れに逆
らって、とうに見捨てられた徳川将軍を守りたい。消滅する運命にある武士
になりたい。そして函館で最後まで幕臣として戦い散っていきました。そん
な朴訥な生き方を貫いた土方歳三。これからも折りにふれ縁の地を訪れる旅
に行きたいと思っています。最後に余談ですが、
最近になり同じく新選組隊士である斎藤一の写真
が見つかりました。斎藤は、戊辰戦争を最後まで
戦い抜き明治まで生き延びた人物です。ある人か
らその肖像が私に似て
いると言われて、密か
に気を良くしています。



祝

おかげさまで



号発刊

大石 耕平 波紋編集長（平成 24 年 1 月～現在）



波紋 400 号おめでとうございます。

記念号の担当編集長として立ち会えたことは大変うれしく思っております。

「歴史」の重みを引き継いでゆくことが継続することであり、発刊の都度襟元を正す思いです。

この先 5 年 10 年と継続することで、企業としてのアイデンティティーとして継承していくことが必須です。おかげさまでの気持ちでこれからも波紋を作成してまいります。

息子が結婚しました

大見 延子（経理部）



子供が結婚して親としての肩の荷が下りると聞いていましたが、そんな日が私にも訪れました。今は結婚にはいろいろな形がありますので、色々な事を想定して冷静に対応出来る様に考えていました。結果的に幸せになっ
てくれれば良いのだから…。私自身は回りの人たちから祝福してもらえる
ような結婚がしたいと思っていました。結婚式で扉が開いて、来て下さっ
た方々から拍手で迎えられたときには自然と頭が深々と下がり、ありがた
い気持ちがおこみあげてきた事を覚えています。東京に住んでいる息子夫婦
は11月に結婚式を挙げます。息子も嫁も結婚式に対して小さい時からお世
話になった祖父・祖母・叔父・叔母を招待したいという気持ちを聞いて、
とても嬉しく思いました。嫁の実家が山形県なので顔合わせの為、山形へ
行って参りましたが、自然豊かでのどかな街並みでした。山形のさくらん
ぼは全国生産のおよそ七割を占め、初夏の訪れと共に可愛らしいルビー色
の実を付ける山形の『小さな恋人さくらんぼ』といわれているそうです。
遠方から行くという事で、さくらんぼ狩りの計画を立ててくださいました。
お互いの家族と一緒にさくらんぼ狩りが出来ました。さくらんぼ狩りをし
ながらさくらんぼは、なぜ2個の実がくつついている
のだろうと考えていました。さくらんぼは1つの花芽
から2個の花が咲いて、その花になるので2個くつつ
いているのだそうです。これからの二人を祝福してい
るかの様に、いつまでもさくらんぼのように二人肩
を寄せ合って仲良く幸せに暮らして欲しいと…心より
祈っております。

